

2022年3月5日かざぐるまデモ 梶川ゆう (Sayonara Nukes Berlin) 演説

ロシア軍ウクライナ侵攻に関して

こんなにも早くウクライナでの状況がエスカレートしてしまったことに、私たちは皆驚愕していません。ウクライナ市民が遭遇している悲劇は計り知れなく、私はここでウクライナの人たちに対する全面的な連帯を表明せずにはられません。そしてこのプーチンの始めた戦争に対し反対の声をあげる勇氣あるロシアの市民に対しても同じです。

このプーチンの戦争は、私たちの生活がどんなにもろく傷つきやすいものか明白にしました。ついこの間まで、私たちの平和な暮らしや民主主義を謳歌する自由は当たり前にあるもので、これからもずっと続くものと信じて疑っていませんでした。でもそれは幻想に過ぎなかったのです。私たちはこれまでも原子力施設や核兵器の危険についてデモで訴えてきましたが、今その危険はとてつもなく具体的なものとなりました。それは単にプーチンが核兵器を特別警戒態勢に移したからだけではありません。チェルノブイリをロシアが占拠したというニュースに私たちは驚愕しました。そして今度はヨーロッパ最大の原発と言われるサポロジヤ原発が襲撃に遭い、火事も出たということです。ウクライナには原子炉が15基もあります。この中の1基でもロシアの襲撃で破壊されるようなことがあれば、またはこれらの施設の電源供給が途絶えるようなことがあれば、フクシマと同じような事故が起こる可能性があります。この危険は今や具体的で現実的なものとなったのです。私はとても恐怖を覚えます。

原子力エネルギーに頼ることはだからこそ間違っているのです。ロシアからのガスを望めないことが分かってからというもの、ドイツでは脱原発を延期するべきかという議論がすでに始まっています。でもそれはまったく間違った結論です。原子力施設は核兵器と同じように危険です。これらも軍事的またはテロリストの標的となり得るからです。私たちは、気候変動を食い止めるためだけでなく、エネルギー供給においても安全性と独立性を確立していかなければならないし、自立し、自然に優しいエネルギーを求めていかなければなりません。原子力・核に関しては、商業的にも軍事的にも、安全ということはないからです。

ウクライナでの戦争により、気候危機の克服、平和、民主主義、そしてエネルギー供給が互いに切り離せないものであることがはっきりしました。惑わされることなく、決意を新たに、ウランやプルトニウムを含むすべての化石燃料から脱却しましょう。理由はあきらかです。これ以上絶対にチェルノブイリもフクシマも世界で起こってはいけなからです！